ハンドマイク街頭演説原稿例　気候危機打開へ本気の取り組みを

二〇二三年九月二十八日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　先日、アメリカ・ニューヨークの国連本部で、「気候野心サミット」が開かれました。気候危機打開の取り組みを加速させる目的で開かれたもので、気候変動対策をリードしている政府や自治体、企業、市民社会の代表ら約４０人が発言者として招かれました。一方、温室効果ガスの排出量が多いアメリカ、中国、インド、ロシア、日本の政府トップは不参加でした。それどころか、報道によれば、日本政府は岸田首相が出席してスピーチする準備をしていたものの、国連側がそれを断ったとのことです。気候変動対策に後ろ向きの日本政府・岸田自公政権に対して、国際的に厳しい視線が向けられていることのあらわれです。日本共産党は、気候危機打開のための本気の取り組みを政府に求めるとともに、「気候危機を打開する日本共産党の２０３０戦略」を発表し、実現のために全力をあげています。

　みなさん、気候野心サミットの冒頭演説で国連のグテレス事務総長は、「人類は地獄の門を開けてしまった」と強い言葉で警告しました。また、島国などから「もう余分な時間は残っていない」「化石燃料ほど大きな脅威はない」など危機感に満ちた発言が相次ぎました。

　グテレス事務総長は、世界の平均気温が産業革命の前に比べて１・１度上昇しているとの調査報告を受け、先進国は２０４０年までのできるだけ早い時期に温室効果ガス排出量を実質ゼロにすること、日本はじめ先進国が参加しているＯＥＣＤ・経済協力開発機構の加盟国に対しては２０３０年までに新たな石炭火力発電を停止し、段階的に廃止することを提起しています。グテレス事務総長の提起は日本にとって、排出量実質ゼロを１０年早めるものです。二酸化炭素発生量が石油などと比べて多くなる石炭火力発電を使い続けようとしている岸田政権の取り組みは、グテレス提案と相いれないものであり、世界の水準からも立ち遅れている日本政府の姿勢が改めて問われます。

　みなさん。人類の未来を守るためにも、気候危機打開のための本気の取り組みが求められています。日本共産党の提案する「気候危機を打開する日本共産党の２０３０戦略」は、２０３０年までに二酸化炭素排出量を２０１０年度比で５０から６０％削減することを目標とし、その実現のために適切な省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの本格的な活用を提案しています。そして省エネと再生可能エネルギーの活用が日本経済にプラスの影響を与えるということも示しています。日本共産党のホームページに載っていますので、ぜひ一度ご覧ください。そして「２０３０戦略」の示す明るい日本の実現のためにも、日本共産党へのご支援、ご協力をいただきますよう、お願いいたします。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）